

## 第7回ふね遺産認定式 WEB 配信のお知らせ

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるため、日本海洋船舶工学会が発足させたふね遺産認定事業も今年で第7回を迎え、新たに次の6件を決定しました。

### ■南極観測船「宗谷」

耐氷性、砕氷性を有する昭和期の南極観測船の嚆矢

### ■青函連絡船「八甲田丸」

安全性を重視した戦後第二世代の青函連絡船の先駆け

### ■青函連絡船「摩周丸」

安全性を重視した戦後第二世代の青函連絡船の先駆け

### ■新愛徳丸

機主帆従方式による我が国初の低燃費船

### ■サン・ファン・バウティスタ

江戸初期の遣欧使節派遣に用いられたわが国建造の唯一の洋式帆船

### ■船舶航海性能試験水槽

世界初の耐航性・操縦性実験用角水槽（東京大学）

認定式は関係者のみが会場に参加して行われますが、認定式の様子を広く一般の皆様にも伝えるため、WEB (Zoom) 配信を行います。記念講演もありますので多くの皆様のアクセスをお待ちしています。

日時： 令和5年9月11日(月) 14:00～16:10 (13:30からWEB配信開始します)

URL： <https://zoom.us/j/93990615539?pwd=eHVFBHM4TmlalllcXRIQW5sU1MxQT09>

ミーティングID: 939 9061 5539

パスコード: 896608

### <プログラム>

14:00～14:05	ご挨拶	日本船舶海洋工学会会長	橋本 州史
14:05～14:25	第7回認定ふね遺産紹介	ふね遺産認定実行委員会委員長	小嶋 良一
14:25～15:00	認定書授与式		
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:10	記念講演		
	南極観測の道を拓いた観測船「宗谷」		
	講師 北海道大学北極域研究センター・特任教授 宇都正太郎		

なお、WEB参加の方にはご発言いただけませんのであらかじめご了承ください。

また記念講演詳細につきましては添付チラシをご覧ください。

## 南極観測の道を拓いた観測船「宗谷」

北海道大学北極域研究センター・特任教授 宇都正太郎

我が国の南極観測は白瀬 轟による探検の時代を含めて、船舶が極めて重要な役割を果たしてきました。とりわけ初代南極観測船「宗谷」は南極観測の道を切り開き、今日まで続く我が国の南極観測事業の礎を築きました。本講演では「宗谷」の生い立ちから、南極観測に向けた大改造工事の概要、そして6次にわたる南極航海における奮闘について紹介していただきます。



船の科学館前に係留される南極観測船「宗谷」

### 講演者略歴

1960年千葉県千葉市生まれ。1985年3月に大阪大学大学院工学研究科博士前期課程を修了し、同年4月に運輸省船舶技術研究所（現在の国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所）に入所。1988年11月～1989年4月まで、第29次南極地域観測隊夏隊同行者として、初めての南極観測に参加。1999年11月～2000年4月までフィンランド・ヘルシンキ工科大学に客員研究員として滞在したのち、2000年11月～2001年4月まで、第42次南極地域観測隊夏隊員として2度目の南極観測に参加。南極観測船「しらせ」に乗船し、同船の性能計測及び海氷観測に従事。2020年3月に海上技術安全研究所を退職。2021年7月から北海道大学北極域研究センターにて勤務。現在、特任教授。専門は船舶海洋工学及び氷工学。氷工学とは「氷が存在する水域における工学的諸問題に関する研究分野」であり、その中心的な課題である「氷海域における船舶と海氷の干渉に関する研究」に従事。